

令和6年度 合志市立西合志南中学校 学校経営方針について

合志市立西合志南中学校 校長 大山 寛

【校訓・校是】 校訓＝「誠実・英知・勤労」、校是＝「認めあい、励ましあい、高めあい」

1 【こんな学校に】

- ①職員等が組織的に対応し、当たり前なのが当たり前でできる生徒を育てる学校
- ②自分が好きで、人のために行動できる、夢を追い続ける生徒が育つ学校

①：規範意識・支持的風土を組織的に醸成する。(安心・安全)

- 「当たり前」とは・・・社会や学校のルール等を守る。基本的な生活習慣が定着している。自他を傷つけない。人に迷惑をかけない。授業をきちんとした態度で受ける。あいさつができる。など
- 「組織的」とは・・・生徒指導や保護者対応、学習等は複数人で対応（担当任せ、担任任せにはしない。一人で抱え込まない、抱え込ませない。報・連・相を徹底する。など
(例：担任・担当と学年主任・学年部・生徒指導主事・主幹・教頭 等)

②：自尊感情（自己肯定感・自己有用感）を高め、夢を追い続ける基盤を育てる。

- 「自尊感情」とは：自分が好きであるという「自己肯定感」と自分が他の人の役立っているという「自己有用感」を含む総合的な感情と捉える。
- 自分が好きになる：自己肯定感の高揚
- 人のために行動できる：自己有用感の高揚
- 「夢」とは・・・「将来、就きたい職業・仕事」ということだけではなく、「将来、自分はこうなりたい」「将来、自分はこのように生きていきたい」「将来、自分はこういう大人になりたい」という将来の生き方を意味する。また、身近なところでは、「こういう上級生になりたい」「こういう先輩になりたい」「こういう大人になりたい」という身近なあこがれも夢と捉える。

2 【学校教育目標】

主体性と協働性を育み、夢の実現に挑戦する生徒の育成 (西南中校区共通)

～「凡事徹底」、そして「自己への挑戦」・「他への貢献」～

生徒が当たり前のことを当たり前でできるようになり、そして自信を持ち、主体性と協働性を育み、何事にもモチベーションを高めながら、身近な夢・将来の夢の実現に向けて挑戦し続けていく力を育成していく。言い換えると、自尊感情を高め、自信を持たせることで、主体性と協働性をしっかりと身につけさせ、自分の夢実現に向け、自分で気づき、考え、実行し、挑戦できる生徒を育てることである。

- 「主体性」・・・自分が好きである。自分の考えを持ち、責任を持って行動すること。
- 「協働性」・・・他の人のために貢献できること。物事を建設的に考え、お互いに協力して活動等を行うこと。その中で、「認めあう、励ましあう、高めあう」。

(1) 目標達成のためには

主体性と協働性の重要な基盤として、生徒たちに自信を持たせ、自尊感情を高めることが重要だと考える。まずは、生徒自身が当たり前のことが当たり前に行えるよう、また人に迷惑をかけないように（凡事徹底）、そして生徒の自尊感情を高め、自信を持たせるようにするために、身近なことからもよいので自分で何かやってみようと挑戦したり取り組んだりさせてみる（自己への挑戦：自己肯定感の高揚）。また、他の人のために身のまわりのことから何か取り組ませてみる（他への貢献：自己有用感の高揚）。さらに、そのことをまわりの生徒や大人（保護者・教職員・地域の方等）が「ありがとう！（認め（感謝））」「すごいね！（褒め）」「もう少し！やれる！大丈夫！（励まし）」というメッセージ（評価）を出してやること（「認めあい、励ましあい、高めあい」）が重要である。このことをあらゆる場面・あらゆる活動で繰り返し行っていく。

また、生徒たちの可能性をより広げ、夢を実現させていくためには、生徒たちだけではなく、保護者、教職員、地域、行政が一体となって協働するということが必要となる。特に教職員のチームワーク・組織力は必要・不可欠である。教職員がチーム一丸となり、共通実践（小中一貫教育での共通実践を含む）を行い、全教職員が同じ指導を行うことで、生徒たちの可能性をより広げ、夢の実現へと大きくつなげていくことができる。全教職員が“チーム西南中”そして、“チーム学年”を合い言葉に、意識して協調・一致団結し、共通実践すること・そろえること・それを続けることが必要・不可欠である。そこで、まずはチーム学年の取組から実施していく。

(2) 具体的な主な取組について

次に挙げる共通実践の取組を生徒や職員、保護者等がそろえ、続けることで、自尊感情を高めるための取組にもなり、さらにはこのような取組が生徒の社会人（大人）としての基盤づくりにもなり、夢の実現にもつながっていくと考える。

①志合わせて夢実現プロジェクトの共通実践（西南中校区小中一貫教育の取組）

○Myプロジェクト（朝から自分で起きる・朝食を食べる・計画的に毎日学習する）

<生徒会がサポート>

- ・朝から自分で起きる・・・保健委員会・生活委員会 等
- ・朝食を食べる・・・給食委員会・保健委員会 等
- ・計画的に毎日学習する・・・学習委員会・生徒会執行部 等

○Homeプロジェクト

<PTAがサポート>

- ・PTA役員、各種委員会からの啓発と実践

○Schoolプロジェクト（共通実践・豊かな心の指導・自主学習の支援）の実施

<主な共通実践事項>

- チャイム黙想
- 無言入退場・無言（無音）掃除
- 姿勢（授業、集会等）
- 先語後礼
- 授業の約束
- 特別支援教育8つの視点
- 聴く態度とファシリテーターの活用
- キャリアパスポートと家庭学習（自主学習の支援）
- あいさつ、返事、靴ならべ
- 生活ノートの活用（基本的な生活習慣・学習習慣の自己チェック） 等

※全校集会や学年集会での周知徹底

②学年部組織を中心とした教育指導の充実【学年担任制】

（学年主任を中心とした取組と学年部の協力体制（チーム学年））

○学年担任制の充実（ローテーション担任・複数人指導体制（朝の会・帰りの会・給食指導等））

- 学年集会等での共通実践・共通事項の確認
- 生徒指導や保護者対応は複数人で組織対応：担任任せにはしない → 報・連・相の徹底
(例：担任と学年部・学年主任・生徒指導主事・主幹・教頭)
- 定期的な学年会の設定と実施（学年実施計画、学年全職員での各学級状況把握）

③授業づくり等の充実（西南中校区小中一貫教育の取組を含む）

キーワード 「学習規律」、「学習態度・意欲」、「学習習慣」

- 規範意識の向上と支持的風土の確立を共通実践（※Schoolプロジェクト共通実践 等）
- タブレットPCの効果的な活用
家庭学習（※デジタルドリル活用）の工夫（生徒の自主学習と教師の働き方改革のコラボ）
情報活用力・主体的学び・問題解決力・協働的学び（※プレゼン教育等を行い、子どもたちの思考力・判断力・表現力を向上）
- 情報モラルの充実（計画的・臨時的な講話等）
- 生徒たちが主体的に学べるための取組（自分たちで追求したくなる導入の工夫、発問の工夫、）
- 効果的なオンライン学習の充実（例：複数教室での一斉授業、不登校対応）※学習保障

④生徒会活動（係活動含む）の活性化

- 他への貢献活動（学級や全校生徒のため、学校のため、地域のため、国際社会のため）
- 青少年赤十字（JRC）活動の活用
- SNSの使い方等の自主的なマナーづくり

⑤二学期制を生かした生徒との向き合う時間の充実

- 長期休業（夏休み・冬休み）前の教育相談の確実な実施（「学習」や「生活」、等について）

校長からお願いしたいこと

- ・「凡事徹底、そして自己への挑戦・他への貢献」を学校教育目標＝西南中合い言葉として、生徒・職員・保護者、地域で生徒の自尊感情を高揚させる。
- ・規範意識と支持的風土を醸成する。
- ・複数人対応、学年対応、各主任や主幹・教頭等、組織的に対応をする。（チーム学年・チーム西南中）
- ・教育効果を最大限に発揮するために、全職員で共通実践を行う。
- ・生徒に共通理解を促すため、また意識向上のために、全校集会や学年集会、部活動生集会を行う。
- ・生徒の良さを「認め、ほめ、励まし、伸ばす」。生徒がなぜ、そのような言動をとったのかの理由等をしっかり聴き、把握し、生徒理解をしたうえで、指導の方針等を決める。

【夢実現プロジェクト】（合志市小中学校共通実践）（★5つのプロジェクトで構成）

- ★**Myプロジェクト**（自分でがんばります：本校では、生徒会でサポートします）
 - 「自分で起きる」 ●「朝食を食べる」 ●「自ら計画的に学習する」
- ★**Homeプロジェクト**（家庭で取り組みます：本校では、PTAでサポートします）
 - 「あいさつをしよう（あいさつ）」 ●「家事を分業しよう（家事分業）」 ●「会話をしよう（会話）」
- ★**Schoolプロジェクト**（学校でがんばります）
 - 「**小中一貫教育による共通実践事項**」
 - ユニバーサルデザインの教室前面 ○授業・集会前の黙想 ○あいさつ・返事・靴そろえ
 - 先語後礼 ○生活ノート ○チーム学年担任制 等
 - 「**規範意識の情勢と豊かな心の育成**」
 - 人権教育（○生徒一人一人に向き合い ○いじめや差別のない学校づくり）
 - 特別支援教育（○子ども・保護者と実現可能な合意形成 ○教室前面のすっきり掲示 ○学習活動の指示は1つ）
 - 道徳教育（○ローテーション授業（「教材・道徳的価値・人（友人や教師）と出会い」））
 - 特別活動（○Myプロジェクトの推進 ○青少年赤十字活動への理解と参加） 等を柱に実践
 - 「**主体的学習習慣の習得**」
 - 誰でもできる予習（例：教科書を読む） ○めあての提示 ○個人面談の活用

他、★**Communityプロジェクト**「見とってはいよ」「言うてきてはいよ」「一緒にやりまっしょい」

★**koshi cityプロジェクト**「笑顔で挨拶」「互いに手伝う」「地域の活動に参加」